

平成 28 年度予算総括質疑の概要

平成 28 年第 1 回二宮町議会定例会

日 時 :平成 28 年 3 月 7 日 (月) 午前 9 時 30 分より

No.	質 問 議 員	質 問 の 概 要
1	野地 洋正議員	<p>① 財政ゼロからの見直し、聖域なきすべての事業検証、との予算編成方針に基づいた最終予算であり、かつ総合計画中期見直し、総合戦略そして町民の意見が反映されたものと解釈する。大きく増額、または減額した部分の政策および施策、そのポイントを伺う。</p> <p>② 機構改革で示された 5 部 1 担当部 16 課 31 班 1 担当から 3 部(1 担当参事) 14 課 (1 担当課長) 30 班への組織変更に伴い、どのようなメリット価値を求め、逆にサービス低下が危惧されるデメリットに対してはどうか対処していくか考えを伺う。</p> <p>③ 各種補助金については、町民力の推進、各種団体の活性化、地域のコミュニケーション力アップ、ある意味政策実現へ直結する予算枠とも考えられるが、各地区への地域活動支援交付金、町民活動推進補助金は同額、各種団体補助金については観光協会、商工会の減額など、見直し、または補助額の基準を伺う。</p> <p>④ 政策、施策、事業をより効果的に実施するため、各種委員会、協議会、審議会、審査会等さまざまな組織が設置され、特別職員報酬費用弁済の額並びに支給方法条例、または各要綱、規則等により報酬または報償が支払われている。報酬は 14,000 千円の減だが、報償費においては 2,300 千ほど増額している。今回の見直しがどう進められたものか伺う。</p> <p>⑤ 安心して住み続けられる地域再生事業として、未利用地、公共施設再配置、学校のあり方等、今後の財政、町民の日々の暮らしをも左右する最も大きな関心事、課題へと着手する。いかに町民の利益が公正に、民主的に、効果的に生み出せるか重要な施策である。内容の詳細と、今後のスケジュールを伺う。</p>
2	露木 佳代議員	<p>1. 今回から予算編成の途中経過がホームページで公表された。就任時の所信表明で掲げた予算編成過程の透明化・見える化への第一歩として評価したい。今回の公表内容が最終形ではないと考えるが、今後、どのような方法で町民の声を反映した予算編成にしていくのか。新規事業を早い段階で公表し、パブリックコメントを行って反映する自治体もある。町民からの期待にどう応えるのか伺う。</p> <p>2. 予算説明資料にある「団体の補助金」は、団体が補助金の要求をする際、二宮町では決められた方式や書類等で行う必要がない。また金額の内訳などのヒアリング方法についても決まりがなく、査定基準もない。我孫子市では、補助金を全面的に見直すため、平成 11 年度をもって、すべての補助金を白紙にした。既得権や前例にとられない客観性と公平性が確保できる新しい制度になり、公募による補助金(二宮でいう町民活動推進補助金)と施策的補助金(条例制定されている事業から本来市が実施すべき事業を補完している公共性が高いようなものまで。各担当課が申請する)が同じテーブルで検討委員会によって審査されている。その後、審査方針の変更等もあったが、我孫子市職員によると、これまでのメリットを維持しつつ、効率的な制度運用がされているとのこと。施政方針に「補助金の見直しに着手する」とあるが、どのように見直していくのか。</p> <p>3. 一色小学校のコミュニティ・スクール導入検討が始まる。町の学校問題を</p>

		<p>考えるとき「地域」「コミュニティ」という言葉は出てくるが「子どもにとって何が最善なのか」という視点がなかなか表に見えてこない。まだ何も決定していない今だからこそ、子どもたちや保護者、地域と町、教育委員会で自由な意見交換ができるのではないか。また今年度は二宮小学校の入学者が27名増え、逆に山西小学校は17名減、一色小学校は8名減となり、町内で増減の偏りもある。現時点において町内の小・中学校の将来像としてどのようなものを描いているのか。</p> <p>4. 町民活動サポートセンターや町民活動推進補助金の在り方などについて、委員会に諮問があり、村田町長がいう「町民力を生かしたまちづくり」は進められていると感じる。しかしこれまで以上に町民が力を発揮できる仕組みや、その部分への予算付けに町民の期待があると考え。施政方針にある「高いポテンシャルを持った町民」を生かすための施策を問う。</p>
3	根岸ゆき子議員	<p>施策と地域と行政がつながってまちづくりをするために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ総合戦略を網羅するような内容で施政方針は書かれている。落ち度がないようできてポイントも見えづらい。「住んで良かった」と幅広い世代に体感してもらえるまちづくりとは、どこに力の入れどころがあるのか。 2. 忠実に総合戦略を再現する施政方針に読み取れるが、もちろん1年間で全てを仕上げることはできない。長期的課題と捉えているものと短期的課題と捉えている仕分けを施策とともに具体的に示してほしい。 3. 施政方針に、この町の財産が「人」であり「人と人との繋がり」であることを町民の方々と共通認識を持ってまちづくりに取り組みたい。とある。その実現として「安心して住み続けられる地域再生事業」で地域住民を中心とした協議会の設立が挙げられると考える。と同時に、地域包括ケアシステムの構築の中で「生活支援体制整備事業」があり、地域と学校の連携の中で「コミュニティ・スクール」や「にのみや子どもはぐくみ塾」があり、「地域福祉計画策定」の中で町や住民の役割分担が明記される。従来から続く自主防災の取り組みもある。 地域づくりという観点から見たときに、財産である「人」を生かして地域に根ざした施策として進めるためのやり方をどのようにするのか。町の考えを問う。 4. 平成28年4月1日から実施される機構改革では、地域政策課、健康づくり課、地域包括ケアシステム担当課長の新設に目を奪われるが、新たに設けることで何を目的にしているのか、どのような業務内容を求めているのか、町民にとって何が変わるのか。説明を求める。 5. 二宮町地域福祉計画の策定、コミュニティ・スクールの導入、健康づくり課の新設、などに鑑み、障害者差別解消法の合理的配慮を意識した取組が心配されるが、特に施政方針の中では触れられてはいない。しかしながら対応は個別にわたり障害者が生活の場面でどの職員と接するか限定できないだけにきちんと意識改革を行っておくことは重要である。平成28年度4月の法の施行を受けて町全体でマニュアル作りで終わることのないやり方を考えていけるのか、認識を問う。

4	二見 泰弘議員	<p>健全財政運営を行なう上で、自主財源の確保と事業の見直し、組織機能の改革、合理化を進め、協働のまちづくりの一層の推進と、行政評価に基づき、徹底した財政改革と機能強化を中心とした、将来ビジョンと財政基盤づくりを、そして安定的で持続可能な財政の確立をしなければならない。そこで順次質問致します。</p> <p>① 初めて手掛けた村田町長の本格予算であるが、10年、20年先の中長期的な町財政の見通しは、どのように感じたか伺います。</p> <p>また、町長の予算編成方針である、事業のゼロからの見直し、身の丈に合った、徹底した合理化策を講じるでしたが、予算編成を行なっていく上で反映できましたでしょうか。</p> <p>② 平成28年度予算案で、扶助費が増大している状況を見ると、今後改善策を講じないと、益々比率が上昇していく恐れがあると懸念します。またその分「建築や土木工事などに財源を回す余裕がなくなります。二宮町の将来の財政健全化に向けて、財源の確保と歳出の事業の在り方について、基本的な考え方、取り組みについて伺います。</p> <p>③ 広域行政について、将来の町財政を考えると、消防の事務組合化、生涯学習センターラディアン、図書館、温水プールなどは、財政的に非常に重荷になると思われませんが、将来を見据えて、広域行政の中で運営ができないかと思いますが、町長の見解を伺います。</p> <p>④ 定住促進対策について、施政方針の中で、この町を知っていただき、来ていただき、住んでいただくためには、首都圏などにターゲットを絞り、もっともっとアピールしていく必要があるとなっていますが、具体的にどのような対策、アピールするのか伺います。</p> <p>空き家対策について、昨年の9月議会一般質問において要望しました、空き家バンクについては設置されましたが、もう一つの要望であります、DIY住宅。最近の若い人たちは自分の住む家を、自分好みに改修するDIY住宅を希望する人が増加しているそうですが、空き家バンク制度において、貸主との条件にお願いできればと思いますが、町長の見解を伺います。</p> <p>湘南ライナーの二宮駅停車について、二宮駅から都心にお勤めしている方々からの長年の懸案であり、大多数の皆様が希望しているのが、湘南ライナーの二宮駅停車です。現在東京行きライナーが1本が停車していますが、全停車は無理かもしれませんが、1本でも、2本でも停車できるよう、人口増加、定住促進対策として、町長が先頭になって、運動したらと思いますが、ご見解を伺います。</p> <p>⑤ 近隣市町との協議について、新聞報道によると、県西地区2市8町、特に南足柄市と小田原市の合併を求める「市民の会」が結成されました。結成について元市議は、「2市8町に危機感がない。これで少子高齢化に対応できるか、市町統合で行政事務の一本化を図り、経常的経費を削減すべきだ」と訴え、住民に合併の必要性を説明し、気運醸成に努めると発言しています。また、多くの自治体の財政が硬直化していると指摘し、「収入の多くが人件費に消えている、せめて経常収支比率を80%台におさえて、投資的経費に回すべきだ」と訴えている。二宮町においても他人ごとではなく、10年後・20年後の財政について、合併ありきでなく、近隣の市町と協議をしていく時期と思いますが、町長の見解を伺います。</p>
---	---------	---

備考：2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
本人の通告書の原稿を転記したものです。